

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

---

1 閉会中継続調査事件

(1) インバウンド拡大に向けた取り組みについて

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、11月11日から13日の日程で金沢市、松本市の行政調査を行った。非常に参考となる大変有意義な調査であったと考えている。
- ・ なお、本件に係る行政調査報告書については、後日配付させていただくが、取り急ぎ調査内容の概要を取りまとめた資料を配付させていただいたところだ。
- ・ 本日は、先般の委員会で調査のポイントとして確認した、「コト消費」の機会提供の状況、「欧米やイスラム圏のインバウンド拡大の実施状況」を中心に、今後の「インバウンド拡大に向けた取り組み」について、各委員から、今回の行政調査を踏まえた御意見やお考えなどを伺いたいと考えているが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ なお、発言の順番については、大会派順とし、今回の行政調査に参加できなかった茂木委員については、一通りお聞きになった上で、御発言があればしていただきたいと思うが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 最初に遠山委員から発言願う。

○遠山 俊一委員

- ・ 今回調査に選んだ、金沢市、松本市は、観光客を取り込む、「モノ消費」から「コト消費」に移行する、伝統、歴史、文化など体感できるツールが多くあったように見受けた。特に金沢市は、金沢城や兼六園、加賀友禅や茶屋街などがあり、多くの外国人を見かけたし、県立の伝統産業工芸館では、石川県の各地域の伝統に裏打ちされた工芸品が並び、外国人観光客が興味深そうに見入っていた。松本城では中に入らずに、堀の外をぐるっと回ってみたが、城の裏の方に欧米の方と見られる方がたくさんいて、両都市とも、欧米豪の旅行客が多く見られて、滞在日数、消費金額の多い観光客を取り込むことが今後の課題だろうと認識してきた。本市においてもこれから縄文遺跡の世界遺産登録を機に、インバウンドの拡大、特に欧米豪の増大が見込めないものかと、この辺の調査・研究を重点的に行っていきたい。

○板倉 一幸委員

- ・ 金沢市の場合は、元々大きな観光地だが、新幹線が開業したことにより、関東地方、関西地方からかなり多くの観光客が来ているという実態を改めて感じた。従前から金沢は、体験といったものを盛んにやられていると聞いていたが、お話を聞いて、おいでになった皆さんが、いかにそこでの消費を拡大していくのかということへの取り組みをさらに参考にさせていただいたほうがよいなと思った。
- ・ 松本市は新幹線の通る駅ではないが、国宝である松本城を抱え、そういったものを生かした観光地、

まちづくりに努めていらっしゃるということだ。松本城の中に入ったが、なかなか登るにも階段が急で狭くて大変だなという思いをしたが、それでも多くの方がそれを体験するというので、それが消費の拡大にどう生かしているかとなると、まだまだ取り組みを進めていく必要があるんだろうなと感じた。2市を視察をさせていただき、観光、インバウンドに対する取り組み方、考え方に濃淡があるなとも感じたが、私どももそういったことを参考させていただきながら、さらに、観光客数の増加もそうだが、皆さんの消費をどう図っていくのかということについて考えていくべきだなと感じた。

#### ○富山 悦子委員

- ・ 金沢市は歴史のあるまちの通り、重みがすごかった。函館市も負けてないと思うが、表現の仕方が消極的なのかなと感じてきた。行政がインバウンド対応の目標なりを明確にされていて、市だけではなく、まちのいろんな団体やら個人の特徴を生かして、芸妓さんまでも英語を話すというあたりも含めて、取り組んでいる姿が印象的であった。さらに観光客を増やすため、修学旅行への助成金をあげて宿泊客を増やしているということは、いずれリピーターとして帰ってくる、そういう印象が残るのでよかったなと。時間があって茶屋街に行ったら、すごくよかった。観光客がたくさんいるが、そこでちゃんと生活をしていて、そして町並みが保存されている。
- ・ 松本市については、発信力が違うなど、そこにお金をかけているなど感じた。

#### ○山口 勝彦委員

- ・ 人柄の違い、文化の違い、歴史の違い、比較しても函館に物足りない部分はたくさんあるが、函館は函館のよさがある中で、歴史の流れ、城があるということでの文化の違いはある。そういう意味では、違う観点で見させてもらったが、やはり地元の方は人柄のいい方々で、朗らかで、金沢から発祥した「おもてなし」という言葉に精通するような、そういう感じが函館にあるかといった時にはちょっとその差は感じたが、函館も今後生かせる場面があれば、市民全体が観光産業の中で生きるという中では、地元の函館市民も見習わなければならないのかなと感じた。

#### ○見付 宗弥委員

- ・ 大きく、2点。偶然にも金沢にも松本にもお城があつて、ぱっと見、日本的だなと視覚的にもわかりやすいまちだと感じた。もちろんそれぞれ歴史も感じたし、それぞれの地域での食文化、手工業についても、北海道や函館も長い歴史の上では敵わないようなものを強く感じてきた。函館で考えた場合には、お城もない、城下町もないと。だけれども五稜郭というものがあつて、西部地区で言うと、和洋折衷の建築物、日本国内ではここが唯一だから、そういう意味では、お城よりはわかりにくい、日本国内唯一はここなんだということをより強くアピールしていく必要があるなと思った。
- ・ もう一つは国別の分析、例えばドイツは文字を読むのが好きだから、文字を多くしたパンフレットにしますとか、そういう風に国別の分析をしていることが、おおざっぱに欧米の方、というわけではなくて、ヨーロッパにもたくさん国があるから、それぞれを分析して、全部にアタックするのではなくて、ことしはこことこの国にしようというような形で、よく同じようなことを書いていることが多いが、見たらちゃんとそれぞれ違うことが書いてあるので、国別の分析をされているは大変勉強になった。

#### ○荒木 明美委員

- ・ まず金沢は、短い旅と長い旅の両方にきちんと対応できているんだなと強く思った。私も、他の都

市や海外に行った時も、短い期間ビジネスで行った時には、観光できる時間は限られていて、この半日で見ようとか、そういう限られた時間の中で見られるストーリーができていて、駅から右回り・左回りのバスがあって、おそらく金沢城、兼六園を中心とした、まずここを見れば外さないよというところが、調べなくても、駅前に行けばパッとわかりやすくなっている。どこで降りても、次のバスは何時に来てどうだとか、その導線のよさをすごく感じた。兼六園では和服の体験だとか、21世紀美術館ではワークショップをやっていたり、そういうコト消費をやっているが、それをやるにもアクセスのよさや、わかりやすさ、とにかく短い時間でコンパクトに回れる仕組みがきちんとできていると感じた。おそらくインバウンドでも長い旅を好む欧米豪にとっても金沢の見どころは1日、2日で見終わってしまうが、ちょうど松本も入っていた3つ星街道観光協議会、それによって近場では白川郷に行けたりだとか、金沢から足を伸ばして松本に行くだとか、新幹線ができて、金沢はその効果を十分に生かし切れているんだなと思った。ホテルの数がどんどん増えていて、今や客室数全部合わせると名古屋を超えたぐらいらしいので、そういう意味では本当に成功例を見てきたなと感じた。

- ・ 松本の方は、それに比べるとコンパクトだが、ビジット・ジャパン・キャンペーンの頃から長く取り組んできていて、それなりの歴史をお持ちだと思うが、見付委員の言うように、国別の、韓国の方は山が好きだとか、この国の人は何が好きとか、細かい対応を考えていることと、あとはやはり現存する天守閣を持っている強みかなど。復興したものは、鶴ヶ城とか大阪城にしてもいろんな展示が中に入ると見られるので、日本人にとってはわかりやすいが、外国人にとってはあまり細かいものを見せられてもわからないので、それよりも、これが江戸時代、もっと前からの柱なんだとか、そういうインパクトは強い。松本城は圧巻だった。

#### ○工藤 篤委員

- ・ 松本城は、目が見えない方も登っていた。やはり歴史を感じるというか、柱そのもの、板そのもの、これ当時からずっとこのままだったの、というふうに新鮮な驚きがあった。北陸・飛騨・信州3つ星街道、これが一つの柱になっていて、お互いが協力し合っているというのが、手に取るようにわかった。函館にとってみれば、函館だけではなくて、近隣の道南、渡島・檜山の人手と手を繋いでこういう「面」で受け入れる対策を、従来もやってきたと思うが、もう少し踏み込んでやっていく必要があるなと感じた。それから馬刺しを食べたが、熊本で食べたものと遜色なくすごくおいしかった。それで翻って函館を見たときに、イカのまち、イカ刺しとあるが、そこだけでなくて、例えば今困ってる鹿対策との結合とか考えていったらどうかなど。何泊もしたときに、毎日イカ刺しもいいが、函館でもこういうものが食べられるというものを。鹿対策、どうかなと勝手に思ってきた。

#### ○茂木 修委員

- ・ まず、交通アクセスが誘致する時に有効だという話もあって、函館にとってみれば、新幹線が札幌まで延伸したときに、千歳着のインバウンドの人を誘致する、そういう環境が整うんだろうなと思っていて、そういう意味では早期の着工が必要かなと感じた。それから有効なのは相手が望む情報を的確に届ける、そういう仕組みをしっかりとつくっていくことが大事なんだろうなと思う。先ほどから、文化や歴史、伝統という話があったが、順調にいけば来年、再来年には縄文遺跡群の世界遺産登録が叶うというところまで来ていて、特に、争いのない1万年続いた縄文文化というのは、おそらくアジアの人だけではなくて、むしろ欧米の方々に共感されるんだろうなと思っている。そういう意味では

函館は非常によい機会を、オリンピック・パラリンピック以後に迎えるというこのタイミングをしっかりと逃さないで、生かしていくことが大事だと思っている。それから報告書にあるとおり、旅行者のチケットの取り方や、行き先などが多様化してきているということで、広く浅くではなくて、一つ一つ深掘りするような旅行需要の喚起をしていくという取り組みが大事だとあったが、まさにそうだなと思っており、今回の視察で得た成果を委員会でもとめて、新たな施策に展開してもらいたいと思う。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 他に発言あるか。

○板倉 一幸委員

- ・ 二次交通、公共交通機関の整備、交通アクセスの整備も進めていかなければならないと思う。茂木委員から話があったが、縄文が世界遺産に認定された場合もそういった地域とのアクセスをどうするのか、これはここだけの問題ではないが、新幹線が札幌まで延伸した時に、昔よく言っていたが、函館は夜景があるので宿泊客を確保できていると。今度は夜景を見て、新幹線に乗ってすすきので一杯飲むというようなことも可能になってくるんだろうと思うので、そういうときに函館の宿泊客をしっかり確保していくためにも、広域的な観光に取り組んでいかなければならないと思うので、そういった交通アクセス整備についての強化にも取り組んでいく必要があると感じた。

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 今後の調査の進め方について、正副としては、これまでの調査や本日いただいた御意見をもとに、今後の取り組みの方向性についてとりまとめた案を正副で作成させていただき、まとめに向けた協議を行っていきたいと考えるが、よろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 他に発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ お諮りする。本件については、これまでの調査をもとに、今後、課題等を整理し、まとめに向けた協議を行っていくため、閉会中継続調査事件とすることでよろしいか。（「異議なし」の声あり）
- ・ お諮りする。ただいま決定した閉会中継続調査事件については、先ほどの理由をもって、議長に申し出たいと思う。これに異議あるか。（「異議なし」の声あり）
- ・ 議題終結宣告

---

2 その他

○委員長（出村 ゆかり）

- ・ 議題宣告
- ・ 各委員から何か発言あるか。（「なし」の声あり）
- ・ 散会宣告

午後2時11分散会